



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

開館60周年を迎え

館長 廣瀬 信一

当館は、本年6月12日に開館60周年を迎えます。日本野球界全体（プロ・アマチュア野球）で運営する博物館として、当時の文部省から認可を受け、昭和34（1959）年財団法人野球体育博物館として後楽園球場に隣接する場所に開館しました。昭和63（1988）年3月の東京ドーム開場と同時に現在の場所に移り、その後平成25（2013）年4月に内閣府より公益財団法人として認定され、併せて名称を野球殿堂博物館に変更いたしました。収蔵品は約4万点、併設している図書室には、野球関連書籍が約5万冊あります。また、開館と同時に創設された「野球殿堂顕彰」は、今年殿堂入りした立浪 和義氏、権藤 博氏、脇村 春夫氏の3氏を含め、204名になりました。

昨年度の入館者数は年度目標の10万人を超える前年比20%増（18,839人増）の111,989人と大幅増となりました。11万人を超える数字は、5年振りです、これにより開館以来の累計入館者数は5,826,624人になりました。



「昭和、平成と長嶋茂雄」展に来館された長嶋 茂雄氏

大幅増の要因としては、春に開催した“ミスタープロ野球”長嶋 茂雄氏のプロ入り60周年記念の企画展「昭和、平成と長嶋茂雄」が、幅広い年代から好評を得、数多くのファンが来館されたことが挙げられます。5月には長嶋氏ご本人も見学を訪れ、巨人軍入団当時の写真などを懐かしまれました。続いて開催した「第100回全国高校野球選手権大会記念展」は、全国から夏の大会の各都道府県最多出場校のユニホームを一堂に展示するなど、郷土色を演出することにより大変な盛り上がりを見せ、改めて高校野球の根強い人気を認識しました。さらに、恒例となりました、夏休みの各種イベント企画を充実させたことや、本年3月に開催したMLB開幕戦で、引退を表明したイチロー選手の関連資料を急遽特別展示として追加したことなどが、大幅な増員に繋がりました。

今年度は、開館60周年に相応しい企画展として、3月15日(金)より6月23日(日)まで「野球殿堂ってなあに？」を開催しています。顕彰制度の仕組みや、殿堂入り204名の出身地ランキング、出身校など「野球殿堂」にまつわる様々なトピックを、殿堂入りした方々の貴重な資料とともに、分かりやすく紹介しています。さらに、年間を通して適宜、殿堂入りをされた方々をお招きして、トークイベントを開催する予定です。既に、第1弾として、3月には今年殿堂入りをされた権藤 博氏によるトークイベントを開催し、会場には横浜のユニホームを着たファンなど大勢の方が参加され大盛況でした。

施設面では、手狭になった殿堂ホールのレリーフ掲額スペースの拡張対策として、シーズンオフに可動式什器を設置し、今後に備えてまいります。このように、様々な企画展、イベントを開催するとともに、リニューアル検討委員会で提言された課題を達成しつつ、当館のミッションである「つなげる」「ひろげる」「たたえる」をテーマに野球の振興・普及に努めていく所存ですので、何卒引き続きご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



可動式什器設置後の野球殿堂ホール予想図

2019年 開幕イベント

3/9 権藤 博 氏 トークイベント

日 時：3月9日(土) 15:30~16:45

聞き手：胡口 和雄 氏 (ニッポン放送 ショウアップナイター アナウンサー)



2019年シーズン開幕を記念して、今年野球殿堂入りされた権藤 博 氏によるトークイベントを開催。中日のエースとして活躍した現役時代、横浜監督として38年ぶりの日本一となった指導者時代のお話や、2019年シーズンの展望などを語っていただきました。

3/29 「春休み親子グラブ製作教室」

日 時：3月29日(金) 14:00~16:00

野球殿堂博物館では、野球シーズン開幕記念イベントとして、親子で軟式少年用グラブの製作(ひも通し)をする「春休み親子グラブ製作教室」を開催しました。ミズノ株式会社のご協力により、同社の山田 晋平氏のご指導の下、約2時間をかけて完成させ、“世界でひとつのグラブ”をお持ち帰りいただきました。次回は、夏休み中の開催を予定しています。募集案内は、後日、当館ホームページに掲載予定です。



3/30 公式記録員が教える「NPB式スコアの付け方」教室

日 時：3月30日(土)

第1回 11:00~13:00、第2回 15:00~17:00

山川 誠二NPB記録課長を講師にお迎えし、「NPB式スコアの付け方」教室を開催しました。公式記録員の立場からのイチロー選手の思い出や、NPB式スコアの特徴などを説明の後、記録法について、試合映像を見ながら解説していただきました。今回のイベントも1回30名で参加者を募集しましたが、前回(昨年12月)に続き大変好評だったため、2回実施しました。参加された方からは、「よく理解できた」、「早速試合で実践してみたい」といった感想が聞かれました。



殿堂入りの人々を語る(63)

父に思う

豊田 泰幸 (2006年野球殿堂入り 豊田 泰光氏長男)



豊田 泰光氏

父はとても厳しい人でした。若くして祖父が倒れた事で、プロ野球選手となり、弟妹を支え父親代わりとなって生きました。それ故、一人息子であった子供時代の私には、父の厳しさは理解出来ず、反発抵抗して青年になる頃には不良の根性なしになっていました。

一方、母は私に優しく、私はその優しさに甘え、父との確執は広がっていきました。私が親がかりで商売をしていた頃、問題に直面し、挫折しそうになった時も、父はとても厳しい助言をくれるのですが、甘やかされていた私は聞く耳を持たず、結果、家を出て勘当されました。

社会に出て家庭を持った私は、家族間のトラブルや仕事等の色々な苦悩や問題に直面します。最初は父の考えに反発し、行動しました。しかし、それでは社会生活がうまく行くはずもなく、気がつけば父や母に怒られた事、内容を思い出して素直に行動して生きようになっていました。その後、両親との交流が再開しました。

母は九州の炭鉱実業家の家に育ちました。裕福ながらも何かと心労の多い家庭だったようです。母は魚が大嫌いでした。食べ物の好き嫌いをする母に、私は「わがままだなあ。お嬢様だ。」と思ったものです。そんな母でしたが、父が野球を引退した後の人生を陰ながら支えました。持って生まれた天性の才能を生かし、飲食店経営をする傍ら、父を支えたのです。

父の元には、ファンや後援者の方から沢山の贈答品が届いていました。地方からの海産物や魚が届くのです。新鮮な魚介類を前に父は、「誰だ！こんなもの送って来やがって！俺が魚嫌いだから其れへの当てつけか？お前もって帰れ！」と毒舌をはきます。私は内心「酷いこと言うなあ。せっかくの真心の品なのに。」と父の事を思ったものです。

晩年、私は父の地方の講演や式典に同行させて貰いました。汽車の待ち時間によく居酒屋に入り一杯やりました。その時父は、私の注文した地魚の料理を美味しそうにたいらげます。私は「おやじ！魚食えるんじゃない！なんで普段食べないの？」と問いかけます。しかし、父は「なんでだろうねー？」としらばっくれてニコニコしているだけ。今思えば、それは父の母に対する思いやりであったのだと感じています。

私は介護の為に、父と二人で実家に同居していた事があります。父はよく「お母さんは宝だ。あいつが居なかったら今の俺はない。俺が居なくなってもお母さん孝行をしてくれよ。」と言っていました。父は介護度が上がり、介護の手間がかかるようになった時も、「ありがとうな。お前、俺と住んで世話してたら疲れて死ぬぞ。施設に入れろ！」と後日階段から落ち、骨折して介護施設に移りました。それは父の私に対する思いやりだったのでしょうか。父は自分の事よりも人様という生きざまの人でした。言葉は悪く敵も作ります。しかし、本質には愛があった人です。そんな父を理解し支えたのが母であったと感じております。

私は現在兵庫県に移住して、インド人のみなさんとインド料理屋を営ませていただいております。日々色々な問題に直面しております。その都度、父の思い、母の教訓を思い出し、日々精進させて頂いております。今後は母を兵庫県に呼び寄せ、父との約束通り親孝行しようと思っております。

もの 知ってほしいこんな資料 (91)

正力 松太郎 氏、平岡 ^{ひろし} 熙 氏の肖像画

「野球殿堂博物館」は2019年6月12日(水)に開館60周年を迎え、同時に「野球殿堂」も創立から60周年の節目を迎えます。「野球殿堂」は日本野球の発展に大きく貢献した方々を表彰し、その功績を永久に称え、顕彰する制度で、2019年の立浪 和義氏、権藤 博氏、脇村 春夫氏をはじめ、204名が殿堂入りしています。

1959年5月1日(金)の第1回特別表彰委員会では、9名の殿堂入りが決定し、青井 鉞^{よきお}男氏、安部 磯雄氏、橋戸 信^{しん}氏、押川 清氏、久慈 次郎氏、沢村 栄治氏、小野 三千磨氏の7名はレリーフが制作されましたが、正力 松太郎氏、平岡 熙^{ひろし}氏の2名は、レリーフではなく、洋画家・江藤 純平氏による肖像画が描かれました。

正力氏は、読売新聞社社長として日米野球の開催に尽力し、1931年、1934年に大リーグ選抜軍を招くことに成功します。1934年のベーブ・ルースを含む大リーグ選抜軍を相手に戦った全日本を中心に、大日本東京野球倶楽部（巨人の前身）を発足させるなど、プロ野球創設を主導し、1950年にはセ・パ両リーグによる2リーグ制を実現させました。



正力 松太郎 氏



平岡 熙 氏

平岡氏は、1871年からの米国留学でベースボールに親し

み、1876年に帰国し日本で野球を普及させた人物です。帰国後は、新橋鉄道局に勤務し、局内に日本初の本格的野球チーム「新橋アスレチック倶楽部」を結成しました。日本で初めてカーブを投げた投手といわれています。

正力氏は「日本プロ野球組織の創始者」として、平岡氏は「日本の野球の創始者」としての功績が称えられ、レリーフではなく肖像画が制作されました。第1回特別表彰委員会の議事録には、「両氏は特別表彰として肖像を油絵として掲額する」と記されています。

2名の肖像画は、開館以来、展示されていましたが、1997年に他の顕彰者と同様、レリーフを制作し、代わって掲額しました。

肖像画は、それ以来、収蔵庫に保管されていましたが、2019年3月15日(金)～6月23日(日)に開催の開館60周年記念展「野球殿堂ってなあに？」で、22年ぶりに公開しています。この機会にぜひご覧ください。

学芸員 井上 裕太

平成、令和 関連資料収集について

5月1日の改元にあわせ、NPB及び12球団のご協力のもと、平成、令和にまつわるプロ野球関連資料の収集を行う予定です。なお、これらの資料は当博物館に届き次第、順次公開予定です。公開につきましては、当館のホームページをご覧ください。

- 平成 最後の試合のウイニングボール
(パ4/29、セ4/30、各3試合)
- 令和 最初の試合の第1球(セ・パ5/1 各3試合)
- 令和 第1号ホームラン関連資料



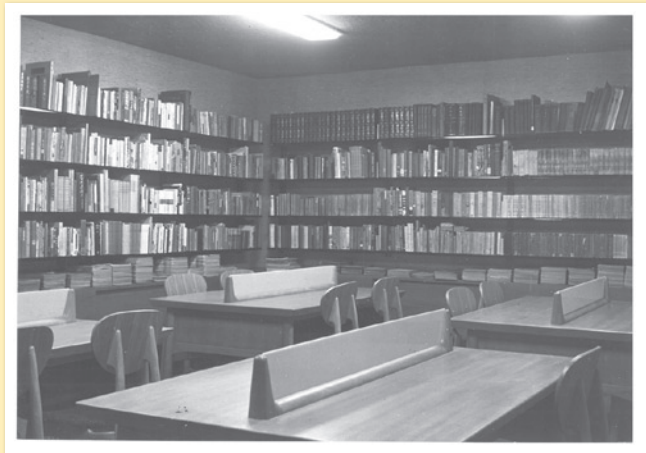
こんにちは図書室です



図書室の移り変わり その1

今年、博物館は開館60周年を迎えます。そこで、図書室の移り変わりを3回に分けてご紹介します。今回は、開館当時の図書室と蔵書についてご紹介します。

博物館は昭和34(1959)年に開館し、当時から館内の一角に「図書室」がありました。開館当初の写真を見ると、閲覧席が10席ほどあり、壁には一面本棚が作られ、そこに本が並んでいるのがわかります。開館初年度の報告書を見ると、1年間に受け入れた図書、雑誌は合わせて約5,300冊でした。この中の、「野球界」、「ベースボールマガジン」、「週刊ベースボール」は、今でも閲覧に利用されることが多い雑誌です。



開館当初の図書室

「野球界」は、明治44(1911)年から昭和34(1959)年まで発行されており、明治、大正、昭和とそれぞれの時代に起こった野球界の出来事を伝えています。大正4(1915)年に始まった現在の夏の甲子園大会、大正13(1924)年に始まった春の甲子園大会、昭和2(1927)年には都市対抗が始まり、「野球界」はそれぞれの大会のようすを伝えています。昭和11(1936)年にはプロ野球も始まり、日本職業野球連盟の創立時から戦時中、戦後までの記事や写真を見ることができます。沢村 栄治投手(1959年殿堂入り)や景浦 将選手(1965年殿堂入り)をはじめ各球団の選手や、試合中の写真などで、当時のプロ野球のようすを知ることができます。また、昭和14(1939)年12月号から掲載されている“連盟事務局だより”は、日本職業野球連盟が発行していた「日本職業野球連盟公報」(のちに「日本野球連盟ニュース」)を引き継いだもので、選手の入団や移籍、応召や帰還など連盟からの情報を載せています。

昭和21(1946)年創刊の「ベースボールマガジン」は、一時休刊しましたが昭和52(1977)年に復刊し、現在も発行されています。創刊号の表紙は、青バットで知られる大下 弘氏でした。また「週刊ベースボール」は、長嶋 茂雄氏がジャイアンツに入団した年の昭和33(1958)年に創刊され、現在も発行されており、昨年創刊60周年を迎えました。その創刊号の表紙は、長嶋 茂雄氏と広岡 達朗氏で、この年のジャイアンツの三遊間コンビでした。

このような資料は、開館当時の主事(現在の館長)だった廣瀬 謙三氏(1973年殿堂入り)が、ご自分で集めていた本を、博物館に持ってきてくださり、スポーツ史研究家、資料収集家で大阪のスポーツマンホテルを経営していた田尾 栄一氏からは、野球関係の本をご寄贈いただきました。また、鈴木 龍二氏(1982年殿堂入り)が引き取った河野 安通志氏(1960年殿堂入り)の蔵書も、博物館に寄贈されるなど、多くの方のご厚意とご協力によって、資料が集まりました。今回ご紹介した雑誌のほかにも、大学野球や社会人野球といったアマチュア野球に関するものや、日本シリーズ、オールスターゲームの記録集といったプロ野球のものなど、今の図書室の基礎となるさまざまな資料を収集していました。

これらの資料で、野球が日本に伝わったところから、現在までの野球の歴史を知ることができます。開館当時に収集した資料も、一般に公開していますので、ぜひご利用ください。

司書 小川 晶子

野球殿堂博物館 トピックス (2019年1月~4月)

1/29 『実況パワフルプロ野球2018』 eスポーツ大会 関係資料寄贈式を開催！

2018年、NPBとコナミデジタルエンタテインメントの共催により、『実況パワフルプロ野球2018』を使用したeスポーツ大会が開催されました。本大会が大きな盛り上がりを見せたことを受け、当館では主催者のご協力により、選手のサイン入りユニホーム、サイン色紙などをご寄贈いただきました。これらは、2019年シーズン終了まで、展示予定です。

左より NPB 総合企画室・高田 浩一郎室長、廣瀬館長、
コナミデジタルエンタテインメント 第3制作本部・
小林 康治本部長



2/28 島野 愛友利投手、来館！

昨年の第12回全日本中学野球選手権大会ジャイアンツカップ優勝の大淀ボーイズで、エースとして活躍した島野 愛友利投手が当博物館に来館しました。島野投手の着用ユニホーム、使用グラブは、少年野球のコーナーで展示中です。

島野 愛友利投手

3/6 「野球報道写真展 2018 ベストショット オブ ザ イヤー」発表！

第1位 大谷とイチローのおいかけっこ
日刊スポーツ新聞社 菅 敏 氏撮影

企画展「野球報道写真展 2018」(会期 2018年12月15日~2019年3月3日)にて開催した「ベストショット オブ ザ イヤー」の投票結果を発表しました。投票総数は過去最多となる5,836票で、第1位には404票を獲得した日刊スポーツ・菅 敏 氏撮影の「大谷とイチローのおいかけっこ」が選ばれました。



3/22 特別展示 「ありがとう イチロー選手」開催

3月21日のイチロー選手引退発表を受け、22日夕方より特別展示「ありがとう イチロー選手」を開催。オリックス、マリナーズ、ヤンキース、マーリンズとWBC日本代表のユニホーム計9着やバット・スパイク等を、館内各所で展示中。

9月ころまで展示予定です。

2019年度の 維持会員を募集中!

「公益財団法人 野球殿堂博物館」(旧・財団法人 野球体育博物館)では、当館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただく「維持会員」の制度があります。会員には次のような特典があります。

1 会員の特典

- (1)博物館発行「ニューズレター」(季刊)を送付します。
- (2)何度でも無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3)アメリカの野球殿堂博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
- (4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5)イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6)博物館で販売している商品が10%引きになります。(一部除外品あり)

*法人・個人会員には上記の特典のほか、ご入会時に 2018年3月発行の『野球殿堂 2018』を進呈します。(ジュニア会員を除く)

*ジュニア会員には上記の特典のほか、ご入会時に「野球殿堂博物館オリジナルピンバッジ」を差し上げます。

2 会員の種類と会費

- 年会費(4月～翌年3月迄)
- 法人会員 …… 1口 100,000円
 - 個人会員 …… 1口 10,000円
 - ジュニア会員(小・中学生) …… 2,000円



3 ご入会の方法

- ①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。
「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。
- ②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ：博物館 業務管理部 (TEL 03-3811-3600) 皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

博物館からのお知らせ

▶ 理事会

3月18日に、平成30年度第3回理事会を開催いたしました。

- 議題
1. 2019年度事業計画案及び取支予算案の承認
 2. 評議員候補者の承認
 3. 評議員選定委員会委員交代の承認
 4. 会議日程等の承認

- 報告
1. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況
 2. 正規職員採用並びに人事報告
 3. 特別表彰研究会設置

以上

▶ 販売

《NPB公式グッズ販売中!》

NPBオンラインショップで販売している下記の商品を、当館でも取り揃えております。お立ち寄りの際に、是非お求めください。

① NPB式スコアブック(慶応式・A4サイズ)

販売価格：1,300円(税込)

NPBの公式記録員が実際にプロ野球の試合で記入している様式と同じ「慶応式」スコアブックを販売しております。



② イースタン・リーグ観戦ガイド 2019

販売価格：500円(税込)

イースタン・リーグの観戦情報誌です。数量限定となっておりますので、お早目にお求めください。



③ グリーンリストバンド 2019

販売価格：540円(税込)

今年もグリーンリストバンドの販売を開始いたしました。売上金の一部は植樹等の緑化・環境保全活動に使用します。



●編集後記 4月1日に新しい元号が「令和」と決まりました。「平成」から「令和」へのバトンタッチにまつわる資料を収集し、展示する予定です(詳細は4ページをご覧ください)。皆さま、ぜひご覧ください。

▶ 職員の異動

《新任》副館長 庄司 正信(しょうじ まさのぶ)



1963年9月20日生まれ 東京都出身
1987年早稲田大学 商学部 卒業
同年(株)後楽園スタジアム(現:株)東京ドーム)入社。
販売部、興行企画部、秘書室、業務部、広報IR室などを経て、2019年4月1日付で野球殿堂博物館に
出向。

《新任》事業部 司書 小勝 洋平(こかつ ようへい)



1990年9月10日生まれ 千葉県出身
2013年 立教大学 法学部 法学科 卒業
千葉県庁、(株)図書館流通センターを経て、2019年4月1日より当館の事業部に勤務。

《嘱託》

事業部司書の小川晶子が、2019年4月より嘱託となりました。

博物館のご案内	場 所	東京ドーム21ゲート右
	開館時間	3月1日～9月30日 AM10時～PM6時 10月1日～2月末日 AM10時～PM5時 (入館は閉館の30分前まで)
	入館料	大 人 600円(500円) } ()は 高・大学生 400円 } 20名以上の団体 小・中学生 200円(150円) 65歳以上 400円
	休館日	月曜日 (祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館) 年末年始(12月29日～1月1日)
《5月・6月・7月の休館日》		
	5月	13日・20日・27日
	6月	3日・17日・24日
	7月	1日 ※7/2～9/1まで休館日はありません。

野球殿堂博物館 Newsletter 第29巻 第1号

2019年4月25日発行(年4回発行)
編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
(旧・財団法人 野球体育博物館)
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

リレー随筆 (74)

絶好のメモリアルイヤー

競技者表彰委員会幹事 富永 博嗣 (西日本新聞社)

この駄文に目を留めたあなた、今、平成ですか令和ですか。いずれにしても、あちらこちらで「平成最後の」「令和最初の」と賑やかなことでしょう。プロ野球界からは最後と最初のボールなどが野球殿堂博物館に寄贈される。なにしろ天皇の代替わりによる改元は、まさに祝い事。お祭りムードに乗っかって、ボーク、捕逸、盗塁死などなど「おめでたい」プレーにも注目したい。

それにしても、このリレー随筆、えらいときに順番が回ってきたものだ。元号をめぐる深みのある話なんて、ポーッと生きてきたから何ひとつ出てこない。あれこれ考えているうち、「時間とは」なんて特大の?マークまで浮かんできた。1秒の長さ、60進法、24進法、365日に日付変更線…。理屈は分かるが、根拠が分らん。結局のところ、この頭では調べるだけ時間の無駄、というわけだ。

と嘆いていたら、我が街・福岡には大事なことがありました。ホークスがこの地で戦い始めたのが1989年、すなわち平成元年。ダイエーからソフトバンクへと親会社は変わったが、平成と共に歩んで「福岡移転30周年」だ。3月中旬から末日まで、福岡市庁舎の外壁には縦30m、横7mの巨大ユニホームが掲げられていた。馴染みの黄色ではなく、赤が基調の記念ユニホーム。球団は「WE= KYUSHU」ユニと名付けている。

随分と長いこと苦闘を続けたが、移転10周年の1999年に初優勝、日本一。福岡にすら深く根付いているとは言い難かった空気は一変し、以降は快調に九州全体に浸透していった。ファン開拓には勝利が一番だなんて、言わずもがなの感はあるが、今や確かに「WE= KYUSHU」。一方で平成ラストの5年間で日本一が4度とまでなると、優勝してもかつてのようには街が盛り上がらない。勝ちつつ、魅力アップ。それが令和での課題になりそうだ。

ちなみに昨年もホークス球団創設80周年を祝い、南海をモチーフとした記念ユニホームを着用した。つまり、今年で2年連続の周年事業となるのだが、ちょっぴり引かかる事がある。実は11年前の2008年には、球団創設70周年と福岡移転20周年のダブル記念として、南海とダイエーのユニホームを復刻しているのだ。「70」と「20」をあしらった記念ロゴもあった。あれは「周年」と「年目」のミックスだったのか。

その「年目」では、今年が1950年に2リーグ制となって70年目だ。これまた福岡に絡めれば、同年にパ・リーグに西鉄ライオンズの前身にあたる西鉄クリッパース、そしてセ・リーグに西日本パイレーツが誕生。ただし、パイレーツはわずか1年で西鉄に吸収合併となった。8チーム中6位でも、優勝した松竹とは48ゲーム差。日本プロ野球初の完全試合も喫した。その弱さもさることながら、経営難に苦しみ給与は遅配・欠配。恥ずかしながら、その親会社は私の勤める西日本新聞社だ。かつて、80歳を超えた当時の選手を取材に訪ねると、その一言目はこうだった。「まだもらってない給料があるんだけど。」

それにしても、時間という誰かが刻んだ理解できない区切りの中で過ごしてはいるが、その積み重ねの「節目」というものは、なかなかありがたいものだとも思う。人口が減る、AIに席卷される、それどころか新聞業界は…と、行く末ばかりがやたらと気がかりなこのご時世。あわあわと時流によるめくばかりのわたくしなどは、節目でもなければ来し方に目を向けることもないからだ。

「周年」「年目」に「改元」まで加わった絶好のメモリアルイヤー。まずは昔の取材メモから見直してみるか。おっと、忘れちゃいけません。野球殿堂博物館、開館60周年です。